

知っておこう！火災から身を守る術



～（幼児から高齢者まで）～



はじめに

日本の大人は、「火遊びをしてはいけません」「火を使う時は大人と一緒に」とお子様に教えていると思います。もちろん、防火教育上、最も重要で大切な教えですのでこれからもぜひご指導お願いします。

アメリカではこの教育プラス、もし子供だけで火災に遭ったときでも自分で洋服についた火を消し、煙が充満した廊下を身を低く這って進み、逃げ出す事ができるよう教えているそうです。日本でも夏は花火やキャンプファイヤー、冬はストーブ等、火を使う機会も多くあります（もちろん子供だけで使わないことが大前提ですが）。家庭、幼稚園・保育園や学校、出かけ先で火災に遭遇するかもしれません。大人が守りきれない事態が発生することがあるかもしれません。その時のために幼児から高齢者まで簡単にできる身の守り方を知っておきましょう。

ストップ、ドロップ、ロール(止まれ、倒れろ、転がれ)

ストップ！

火が洋服についたまま走ると風がおこりかえって火の勢いを大きくします。

だから走らないように教えます。



ドロップ！

地面に倒れることにより燃えているところを地面におしつけるようにします。

接地面積を増やしているわけです。



ロール！

地面に倒れたまま、右に左に転がります。

転がることで窒息消火をさせます。



カバーユアフェイス！

顔の前に上がる火を防ぐ役割があります。



保育所・幼稚園バージョン



ファイヤーキッドがおなかの火を消すよ



みんなもおなかの火を消すよ

小学生バージョン



高学年になると簡単にできます



見本を見たので全校生徒でゴロゴロ

グレートエスケープ（大脱走）

火災時にどのように逃げるか、体で覚えさせるもので、火災での死亡原因の多くが有毒ガスの吸引であることから、子供たちに大変有益なプログラムです。

実際にスモーク・マシーンにより煙を発生させ（人体に無害の煙です）、煙が充満した部屋から脱走します。



煙の部屋から身を低くして脱出してきたファイヤーキッド



ファイヤーキッドの後を追う子供たち

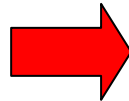
煙の流れを知っておこう！

煙を吸ってしまうと、煙に含まれる有毒ガスにより、体の自由がきかなくなってしまう。逃げたくても逃げるができなくなるのです。少しでも煙を吸わないようにするためにも、煙の流れを知っておきましょう！！

保育所・幼稚園バージョン



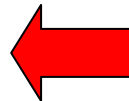
燃えると煙が発生します。
煙は発生すると、まず上にあがっていきます。（すぐに横には広がりません）



天井まであがったら煙は横に広がります。



煙が少ない下の方を低い姿勢で脱出しましょう。

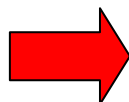


天井まであがると、冷やされて下におりてきます。

小学生バージョン



6年生になると生徒がみんなに見本が見せられるようになります。

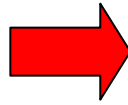


せっかくなので全校生徒でくぐってみましょう。

火災時に部屋から脱出の仕方



身を低くしてドアの前へ進みます。



ドアを触り（手の甲で）、もしそのドアが暖かければそのドアは使わずに他の逃げ口へ行きましょう。

情報提供： 在日米海軍日本地域統合消防隊

長谷川 火災予防課長

住宅用火災警報機



僕はファイヤーキッド。高松市を災害から守るために生まれました。

もし火災に遭遇した時、自分の身の守り方、わかっていただけましたか？

しかし火災を起こさないようにするのが1番です。子供の火遊び、火の不始末に気をつけるとともに、放火されないように、日頃から家の周りに燃えやすい物を置かないようにしておきましょう。

また平成23年までに全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務になりました。自分や家族の身を守るためにも早めに設置しましょう！！